

認定を受けている課程を有する専攻等の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

平成28年4月1日更新

● 人文科学研究科地域文化専攻哲学分野（中専免（社会）・高専免（公民））

人文科学研究科は、人文諸科学の広範囲な学問領域が相互に緊密に協力し、文化の本質と構造、その多様性と普遍性、その他文化にかかわる種々の問題を、比較論的・学際的・総合的に研究し教育することを基本目標とする。このような目標のもと、文化について広い視野と高い識見をもち、着実にして真摯な研究態度を身につけ、専門的能力と豊かな人間性を備えた高度な職業人の養成を目的とする。

新学習指導要領において、公民科教育には、平和で民主的な国家・社会の形成に自ら参画する公民としての資質を養うべく、生徒たちに社会的諸事象への理解を持たせるとともに、そうした理解を踏まえて諸問題を自ら考察する主体的な学習を指導することが求められている。この要請をより高度で専門的な水準で満たす教員を養成するため、政治上・経済上・法律上・倫理上の原理と諸事象、及び社会学的・心理学的な諸問題についての深い理解とともに、学生の主体的な考察を促し導く啓発力を育成する諸科目が、適切に配置された本分野に、中専免（社会）及び高専免（公民）の教職課程を設置する。

● 人文科学研究科地域文化専攻史学分野（中専免（社会）・高専免（地理歴史））

地理歴史科教育には、日本及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養うことが求められるため、上述の研究科の理念を踏まえ、日本や世界の地理や歴史、法や政治、経済などに関するより高度な専門知識と、国家と社会や文化の国際環境を関連づけて考える思索力を育成する諸科目が適切に配置された本分野に、中専免（社会）及び高専免（地理歴史）の教職課程を設置する。

● 人文科学研究科言語文化専攻国語コース（中専免（国語）・高専免（国語））

言語文化専攻国語コースにおいては、言語文化論・日本文学・日本語学研究等の講義科目によって、文学・語学の歴史や伝統、文法体系など、新学習指導要領における「日本の伝統や文化について理解を深め、そのよさを継承・発展させる」ための、より高度な専門能力を養成することを目指している。また、言語文化総合演習等の演習科目により、新学習指導要領における思考力・判断力・表現力等を指導するための、より高度な実践的能力を養成することが可能であるため、上述の研究科の理念を踏まえ、中専免（国語）及び高専免（国語）の教職課程を設置する。

● 人文科学研究科言語文化専攻英語コース（中専免（英語）・高専免（英語））

国際化、グローバル化、多様化が進捗する現代社会にあって、その最たるコミュニケーションの手段となる英語については、従来の読み書き中心の文字言語だけではなく、新学習指導要領が説く四技能全てすべてが必要であるとともに、言語能力だけではなく、多様な言語文化への洞察をもちあわせた、新しいグローバルな社会に対応することのできる高度職業人が必要とされる。

言語文化専攻英語コースにおいては、英語学・英米文学を中心としたより高度な専門知識を修得し、語学能力とコミュニケーション能力だけではなく、多様な言語文化への洞察力と国際的な視野を持った教員を養成することが可能であるため、上述の研究科の理念を踏まえ、中専免（英語）及び高専免（英語）の教職課程を設置する。

● 人文科学研究科言語文化専攻ドイツ語コース（中専免（ドイツ語）・高専免（ドイツ語））

言語文化専攻ドイツ語コースは、持続可能な社会を構築する「創造力」(Gestaltungskompetenz)の育成を教育の基本理念としている。この「創造力」は、新学習指導要領が説く「生きる力」に相当するものであり、地域の伝統に根ざすドイツの言語・文学・文化を研究する中で思考力・判断力・表現力を身に付けた本研究科の修了生は、ドイツ語の授業を通じて、語学能力のみならず、中学生及び高校生に「生きる力」をつけることが可能であると考えられるため、上述の研究科の理念を踏まえ、中専免（ドイツ語）及び高専免（ドイツ語）の教職課程を設置する。

● 教育学研究科学校教育専攻（幼専免・小専免・中専免（国語）（社会）（数学）（理科）（音楽）（美術）（保健体育）（技術）（家庭）（英語）・高専免（国語）（地理歴史）（公民）（数学）（理科）（音楽）（美術）（工芸）（書道）（保健体育）（家庭）（英語）・特支専免（知・肢・病））

教員養成に対する理念・構想

学校教育専攻は、学校教育専修、臨床心理学専修及び教科教育専修の3専修によって構成し、次のような資質・能力を有する人材を養成する。

- 教育及び臨床心理に関わる個別諸科学の理論
- 教育及び臨床心理における諸科学理論と社会における諸事象とを往還させる省察能力
- 現代社会における教育問題の解決に資する臨床的・実践的な研究能力
- 教育科学分野で必要とされる情報収集・分析能力

教職課程の設置趣旨

学校教育専攻の各専修は、上記の専攻の理念を受けて、以下の目的のもとに教職課程を設置している。

学校教育専修

教育学、教育心理学、障害児教育学、幼児教育学の各領域の高度な専門的知見に基づき、教科にとらわれない立場から学校教育の理念・目的・歴史、学校教育への社会学的探究、カリキュラム開発や授業研究の手法、学校経営、総合学習、道徳教育、特別活動、生活指導、児童生徒の発達、学習のメカニズム、進路指導、特別支援教育、幼稚園・保育園における指導等について、自ら課題を発見し、自律的に研究を持続できる中核的教員の養成を目的とする。

臨床心理学専修

不登校やいじめなどの学校教育をめぐる問題に対して、臨床心理学やカウンセリングの理論と手法により、児童生徒とその保護者及び教職員への支援ができる専門家の養成を目的とする。

教科教育専修

教科教育専修は、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育技術教育、家政教育、英語教育の10の教科教育から成り、各教科教育のカリキュラム開発、授業研究、学習指導法の開発に関わる研究・教育を行っており、研究教育指導においては、各教科に関わる個別諸科学（教科専門）の教員と教科教育学の教員が協働して、最新の知見・技術に基づく指導を行っている。

▷ 国語教育分野（中専免（国語）・高専免（国語）（書道））

国語教育に関する最新の知見に基づいて国語科のカリキュラム開発、学習指導法、国語科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 社会科教育分野（中専免（社会）・高専免（地理歴史）（公民））

社会科教育に関する最新の知見に基づいて社会科及び地歴科・公民科のカリキュラム開発、学習指導法、社会科・地歴・公民の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 数学教育分野（中専免（数学）・高専免（数学））

数学教育に関する最新の知見に基づいて数学科のカリキュラム開発，学習指導法，数学科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 理科教育分野（中専免（理科）・高専免（理科））

理科教育に関する最新の知見に基づいて理科のカリキュラム開発，学習指導法，理科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 音楽教育分野（中専免（音楽）・高専免（音楽））

音楽教育に関する最新の知見に基づいて音楽科のカリキュラム開発，学習指導法，音楽科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 美術教育分野（中専免（美術）・高専免（美術）（工芸））

美術教育に関する最新の知見に基づいて美術科のカリキュラム開発，学習指導法，美術科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 保健体育分野（中専免（保健体育）・高専免（保健体育））

保健体育教育に関する最新の知見に基づいて保健体育科のカリキュラム開発，学習指導法，保健体育科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 技術教育分野（中専免（技術））

技術教育に関する最新の知見，および技術科教育を構成する機械，金属工学，情報などの各領域での基本的な概念と最新の研究成果に基づいて，中学校等におけるものづくり・技術科のカリキュラム開発，学習指導法，授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 家政教育分野（中専免（家庭）・高専免（家庭））

家政教育に関する最新の知見に基づいて家庭科のカリキュラム開発，学習指導法，家庭科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

▷ 英語教育分野（中専免（英語）・高専免（英語））

英語教育に関する最新の知見に基づいて英語教育及び英語科のカリキュラム開発，学習指導法，英語教育・英語科の授業分析について先導的な役割を担う学校教員の養成を目的とする。

● 教育学研究科高度教職実践専攻（幼専免・小専免・中専免（国語）（社会）（数学）（理科）（音楽）（美術）（保健体育）（技術）（家庭）（英語）・高専免（国語）（地理歴史）（公民）（数学）（理科）（音楽）（美術）（工芸）（書道）（保健体育）（家庭）（英語））

教員養成に対する理念・構想

高度教職実践専攻は、「俯瞰力と独創性を備え，持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人」の育成という信州大学大学院学位授与の方針の理念にのっとり，学校と家庭・地域社会の創造的な再構築の担い手として，次世代の人材を育成する資質と能力を備えた高度専門職としての教員の養成を目的とする。

具体的には，次のような資質・能力を有する教員を養成する。

- 教育の専門職としての学識・技能
- 教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点
- 協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力
- 既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力
- 社会の一員である教員として生きる意志と倫理観

教職課程の設置趣旨

高度教職実践専攻が養成を目指す教員の資質能力は，一つには児童生徒に関する基礎的知識や技能の確実

な習得に加えて、思考力・判断力・表現力等を育成する学びをデザインできる実践的指導力や、社会の変化に伴う新たな課題に柔軟に対応できる広い視野をもった高度専門職業人としての力である。

もう一つは、様々な課題に対して学校現場でリーダーとして問題の解決を図る、いわゆるスクールリーダーとしての資質能力であり、学校課題に即してチームの中で他の教員を指導できる力やマネジメント能力である。この資質能力は、主に現職教員を念頭に考えており、自らの職業生活への関わり直し (re-engagement) を通して、教育現場 (学校) と、それを取り巻く家庭や地域社会と、そこに関わってゆく教師としての自己との新たな関係を創造的に再構築しようとする人材の育成を意味するものである。

これに対応して、本専攻では以下のコースを設定している。

○高度教職開発コース (現職院生向け)

勤務校におけるチームの実践的課題に焦点を当て、その課題解決のための探究活動に取り組む演習を中心に据える。チームの中で自分が果たすべき役割を客観的に把握して自己努力することに加え、チームとして教職員がどのように戦略を立て、分担して外部の教育力を活用しながら課題解決に向かうべきか等をケースに即して実践的に取り組むものとする。

○教職基盤形成コース (学部卒院生向け)

教育課題を学校現場の実情に即して捉え直す機会として、教職実践応用コースの院生と共に協働で問題解決を図る演習に参画する。また、それぞれの課題について先行研究をレビューして整理したレポートをカンファレンスに提出する等の役割を担うものとする。これらは、拠点校における個別具体的な課題をモチーフとしたケースメソッドを抽出する実践的演習となる点が特色である。

● 総合理工学研究科 理学専攻 (中専免 (数学) (理科)・高専免 (数学) (理科))

教員養成に対する理念・構想

理学専攻は、前項の教育理念を掲げ、教職に対する強い情熱と使命感、および教育の専門家としての確かな力量をもち、さらに幅広い見識と健全な倫理観を備えた教育人を養成する。理学専攻の学位授与方針では「専門知識に基づいた見識を持ち、その妥当性を理論的に説明し、議論する能力」をうたっており、さまざまな課題に対処できる優れた中高教員を育成することは理学専攻の重要な構想の一つとして位置づけている。

教職課程の設置趣旨

教員養成に対する理念・構想に基づき、総合理工学研究科および理学専攻の多様な学問領域と専門領域の特色を生かして、将来の教育を担う優れた人材を養成するために教職課程を設置する。

中専免 (数学), 高専免 (数学)

理学専攻では、数学分野を中心に数学・自然情報学の専門知識や、論理的思考力・問題解決力・柔軟な発想力などの基礎能力を身につけさせるとともに、豊かな人間性・社会性をはぐくんでいる。このような教育を通して、将来の教育を担う人間味あふれた数学教員を養成するために、教職課程を設置する。

中専免 (理科), 高専免 (理科)

理学専攻では、理科学分野を中心に物理学、化学、地球学、生物学、物質循環学に関する専門知識や、論理的思考力・問題解決力・柔軟な発想力などの基礎能力を身につけさせるとともに、幅広い見識や健全な倫理観をはぐくんでいる。このような教育を通して、将来の教育を担う人間味あふれた理科教員を養成するために、教職課程を設置する。

● 総合理工学研究科 工学専攻 (中専免 (理科)・高専免 (理科) (情報) (工業))

教員養成に対する理念・構想

工学専攻は、前項の教育理念を掲げ、科学技術と環境保全の調和に関心を持ち、学際的技術の研究開発や国際化に対応できる高度な技術者の育成、エネルギー複合材料科学分野などの学際的先端科学技術を開拓できる能力を有し、環境マインドを持った先導的な人材を育成する。教員養成においては、上記の理念ならびに養成する人材像をもとに、理科・情報・工業に関する専門的な知識、実験・演習で身に付けるエンジニアとしての技量に加えて、広い見識と倫理観、技術者精神を涵養し、教職に対する粘り強い情熱と使命感、教育に携わるための確かな力量、総合的な豊かな人間性を備えた明日の教育を担う人材を養成することを目指す。

教職課程の設置趣旨

理工系人材の育成において、専門分野の高度な専門知識に基づく問題分析・課題解決能力、さらに他分野の課題にも応用発展させることができる応用力が不可欠である。さらに、科学技術の発展・イノベーションにおいては、様々な分野が複雑に絡む複合的技術分野が生まれており、技術の進展に加えて新しいものの見方、感性が必要となってきた。

教職課程においては1専攻が1教科に対応するものではなくすべての分野が、相互に協力・互いに補完する形をとり、教職をめざす学生に対して、各専攻における専門知識の修得に加え、教職支援センター（教職教育部）における教育によって教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付けさせ、教員の職務を支障なく実践できる資質能力を養成する。工学を俯瞰して見ることのできる能力をもつ人材の養成、「イノベーションの核となる理工系人材」や「ものづくりの楽しさ・大切さを伝えることのできる理工系人材」を育成できる工学的センスを兼ね備えた教員の養成を目指す。

中専免（理科）、高専免（理科）

物質化学分野、機械システム工学分野、水環境・土木工学分野を中心に物理・化学・環境科学をはじめとした科学の基礎と応用に関する広範かつ専門的知識・技術を体系的に修得し、教職支援センターにおける教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付ける教育を通じて、科学技術に対する情熱にあふれ、「理科が好き」な生徒を発掘・育成できる理科教員を養成するための教職課程を設置する。

高専免（情報）

電子情報システム工学分野を中心に、情報科学、ソフトウェア工学、画像・パターン解析・最適化理論、情報デバイス・センサ処理、ネットワーク・セキュリティなどの教科に関連する科目の修得、教職支援センターにおける教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付ける教育を通じて、情報社会及び情報倫理の情報関連工学の専門知識の豊かな情報教員を養成するための教職課程を設置する。

高専免（工業）

物質化学、電子情報システム工学、水環境・土木工学、機械システム工学、建築学分野を中心に、関連する専門知識と経験の修得、現代社会の基盤形成に工業が果たしている役割の深い理解、自然環境との調和と共生の必要性の認識した工業教員を養成するための教職課程を設置する。

● 総合理工学研究科 繊維学専攻（中専免（理科）・高専免（理科）（工業））

教員養成に対する理念・構想

繊維学専攻は、信州大学の理念に基づき、学部からの6年一貫教育を踏まえた分野編成、カリキュラム構成となっており、教員養成においても、4つの分野において、学部からの継続性を考慮し、「理科」または「工業」の教員を養成する。衣・食・住の要である“繊維”に根ざした繊維学領域において、それぞれの分野の特徴である先進繊維工学・感性工学、工学と生物との融合、化学と材料に基盤を置く「ものづくり」及び応

用生物科学を基盤とした専門知識の修得はもとより、広い見識と健全な倫理観、教職に対する粘り強い情熱、確かな力量と総合的な人間性を備えた明日の教育を担う人材を養成することを目指している。

教職課程の設置趣旨

繊維学専攻では、信州大学の教員養成に対する理念・構想に基づき、学部からの6年一貫教育を踏まえた分野編成、カリキュラム構成となっており、衣・食・住の要である“繊維”に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的先端技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓するとともに、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ人材を養成する。この特色を生かした多様な学問領域・専門分野を通じてはぐくまれる有意な教育人を養成するために、繊維・感性工学分野、機械・ロボット学分野、化学・材料分野、応用生物科学分野の4つの分野において教職課程を設置する。

なお、繊維学専攻においては、各分野が“繊維”を軸として有機的につながっている。教職課程においては1専攻が1教科に対応するものではなく、各分野が相互に協力・互いに補完する形をとり、教職をめざす学生に対して、繊維学を軸とした理工学分野の幅広い視点での学修と深い知識の涵養を促す。

高専免（工業）

先進繊維・感性工学分野（先進繊維工学ユニット）、機械・ロボット学分野は、繊維工学、計測学、解析学などのテキスタイル分野、ナノ融合材料、力学、熱工学、流体工学、電子工学などの機械・ロボット学分野が中心となっているため、その複合技術により、新たな科学技術や付加価値の高い工業製品を作り出す高度専門技術を学ぶことにより、基礎能力と高度な専門知識を修得し、問題解決能力、実践力ならびに指導能力を身につけた明日の教育を担う工業教員を養成するための教職課程を設置する。

中専免（理科）、高専免（理科）

先進繊維・感性工学分野（感性工学ユニット）、化学・材料分野（ファイバー材料工学、応用分子化学の各ユニット）、応用生物科学分野は、人間の感性に特化した、生理学、知能情報学、繊維化学などの感性工学分野、化学、材料に基盤を置くものづくりとしての、材料化学、分子化学などの科学・材料分野、生物資源と工学との融合としての、生態学、微生物学、発生生物学、遺伝子機能科学などの応用生物科学分野を学ぶことにより、科学の基礎と応用に関する広範かつ専門的な知識、技術を有し、地球環境や人間に配慮しながら問題解決できる能力を身につけた理科教員を養成するための教職課程を設置する。

● 総合理工学研究科 農学専攻（中専免（理科）・高専免（理科）（農業）

教員養成に対する理念・構想

農学専攻は、前項の教育理念を掲げ、自然環境と共生し得る農学の学際的先端領域を開拓し、実践的技術力及び創造性豊かな研究開発能力を備えた人材を養成する。農学は、生命・食料・環境に関する総合科学であり、人間の営みとその基盤となる自然環境が調和する持続可能な社会を構築するために不可欠な学術分野である。そのため、先端生命科学、食品生命科学、生物資源科学、環境共生学の4つの専門分野を設け、相互に協力しながら自然と人が共生する持続的社会的創造に向けた教育を行うこととした。教員養成においては、それぞれの分野で涵養された専門的知識と豊富な技能を有し、教職に対する強い情熱と使命感を持った教員の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

農学専攻においては、先端生命科学、食品生命科学、生物資源科学、環境共生学の4つの専門分野に応じた分野が設けられているが、1分野が1教科に対応するものではなく、全ての分野が理科と農業の内容を併せ持つ。教職課程においては、生命科学分野の基礎となる生物学、化学、物理学、地学等理科の科目群と、

育種，園芸，畜産，環境等農業の専門科目群とに整理し，各教育課程の体系性を確保・維持するが，内容的には理科の内容が農業の内容を，農業の内容が理科の内容を補完する。4分野が相互に協力しながら自然と人が共生する持続的社会的創造に向けた教育を行い，広く生物を対象に，物質レベルから個体，生態系に至る自然界での生命科学及び農学を幅広い視点で学修し，深い知識の涵養を目指すものである。そのため，中専免（理科），高専免（理科），高専免（農業）の教職課程を設置し，生命科学及び農学を基盤とした複合・境界領域の識見を育成する。

中専免（理科），高専免（理科）

専攻の教育課程においては，生命科学分野の基礎となる生物学，化学，物理学，地学の各科目と近年著しく発展している生命科学に関する専門科目により，生命科学さらには複合・境界領域に関する知識が幅広く学べる。また，実験，演習を含む実践的な教育と信州の豊かな自然を生かしたフィールドワークが充実しているため，座学ばかりではなく自然の中で理科の各分野を学びとることができる。

農学専攻の養成人材像は，前項に記載したように，教員養成，特に，教科ごとの高度な専門知識が必要とされる中学校及び高等学校教員の養成に合致する。教員養成の理念・構想に基づき，生命科学を柱とする新時代の農学の幅広い知識・技術と倫理観に裏打ちされた人間力を育み，洞察力と問題発見・解決能力で諸課題を乗り越える実践力・創造力を兼ね備え，コミュニケーション能力に優れた教員養成を行うため，中専免（理科）と高専免（理科）の教職課程を設置する。

高専免（農業）

専攻の教育課程においては広大なキャンパスと信州の豊かな自然を生かしたフィールドワークを学修することに加えて，実学である農学と生命科学に関する授業の中で農業の関係科目（動物資源生産学，植物資源生産学，生産環境システム学，森林資源利用学，緑地環境保全学）等を幅広く学ぶことができる。

農学専攻の養成人材像は，農学分野の高度な専門知識が必要とされる高等学校の教員養成に合致するものである。教員養成の理念・構想に基づき，農学と生命科学の幅広い知識・技術と倫理観に裏打ちされた人間力を育み，洞察力と問題発見・解決能力で普遍的な物事に対処し，実践する能力とコミュニケーション能力に優れた教員養成を行うため，高専免（農業）の教職課程を設置する。

● 総合理工学研究科 生命医工学専攻（中専免（理科）・高専免（理科））

教員養成に対する理念・構想

生命医工学専攻の教員養成においては，信州大学大学院総合理工学研究科の教育目標を踏まえて，生命工学分野，生体医工学分野の2つの分野において以下のとおり教員養成に対する理念・構想を掲げている。

生命工学分野の教員養成においては，組織工学・細胞工学・遺伝子工学等の専門的技術を有し，かつ医療や福祉などの医学的基盤知識も併せ持つ，境界領域の実践的な生命科学の発展に貢献できる人材の養成を目指している。そして，これらに必要となる基礎的な工学知識はもとより，広い見識と健全な倫理観，教職に対する粘り強い情熱，使命感と力量，広い視野に立ち豊かな人間性を備えた明日の教育を担う人材を養成することを目指している。

生体医工学分野の教員養成においては，工学・繊維学・農学・理学・医学の学士課程で身につけた基礎的な科学技術の素養に基づき，健康・医療・福祉領域で活躍する高度専門職業人，研究開発者等に必要とされる高度な知識や研究手法を身につけることを目指している。そして，これらに必要となる基礎的な工学知識はもとより，広い見識と健全な倫理観，教職に対する粘り強い情熱，使命感と力量，広い視野に立ち豊かな人間性を備えた明日の教育を担う人材を養成することを目指している。

教職課程の設置趣旨

生命医工学専攻では、総合理工学研究科の教員養成に対する理念・構想に基づき、医工学の特色を生かした多様な学問領域・専門分野を通じてはぐくまれる有意な教育人を養成するために、生命工学分野、生体医工学分野の2つの分野において教職課程を設置する。

中専免（理科）、高専免（理科）

本専攻は、教員養成に対する理念・構想に基づいて、問題解決能力、実践力ならびに指導能力を身につけた明日の教育を担う人材を養成することを目指し、開放制教員養成の原則を踏まえて、教職志望の学生に教職課程を履修する機会を可能な限り与えるため、理工系教育教員の養成を目的とした教職課程を設置する。具体的には、生命工学分野は組織工学、分子細胞生物学、遺伝子工学などの科学技術を医療や福祉などの医学的基盤知識と統合して境界領域の実践的な生命科学の発展に貢献できる高度専門職業人の育成を目的とし、生体医工学分野はロボット工学、バイオメカニクス学、生体材料学などの科学技術を医学的基盤知識と統合して医療福祉分野における製品開発に貢献できる高度専門職業人の育成を目的としている。また、教育課程も理工系分野を中心としており、当該分野学生は「理科」の教員としての資質及び教科に関する能力が高いと思われるため、中専免（理科）及び高専免（理科）の教職課程を設置する。